

# 参加していることを実感できる協業体験を生む、正しい会議用設備とは？

ハイブリッドワークは定着しつつあり、長期的な対応に備える必要があります。



IT 部門における意思決定者の **66%** は、テレワーク増加への対応を上位の課題として位置付けている\*



将来のリモートワークを計画していないのは組織のわずか **4%** である\*



**98%** が、リモート会議は今後も継続すると考えている\*\*

**57%** の従業員は、オフィスに出勤するのは1か月に10日以下にすることを望んでいる\*\*



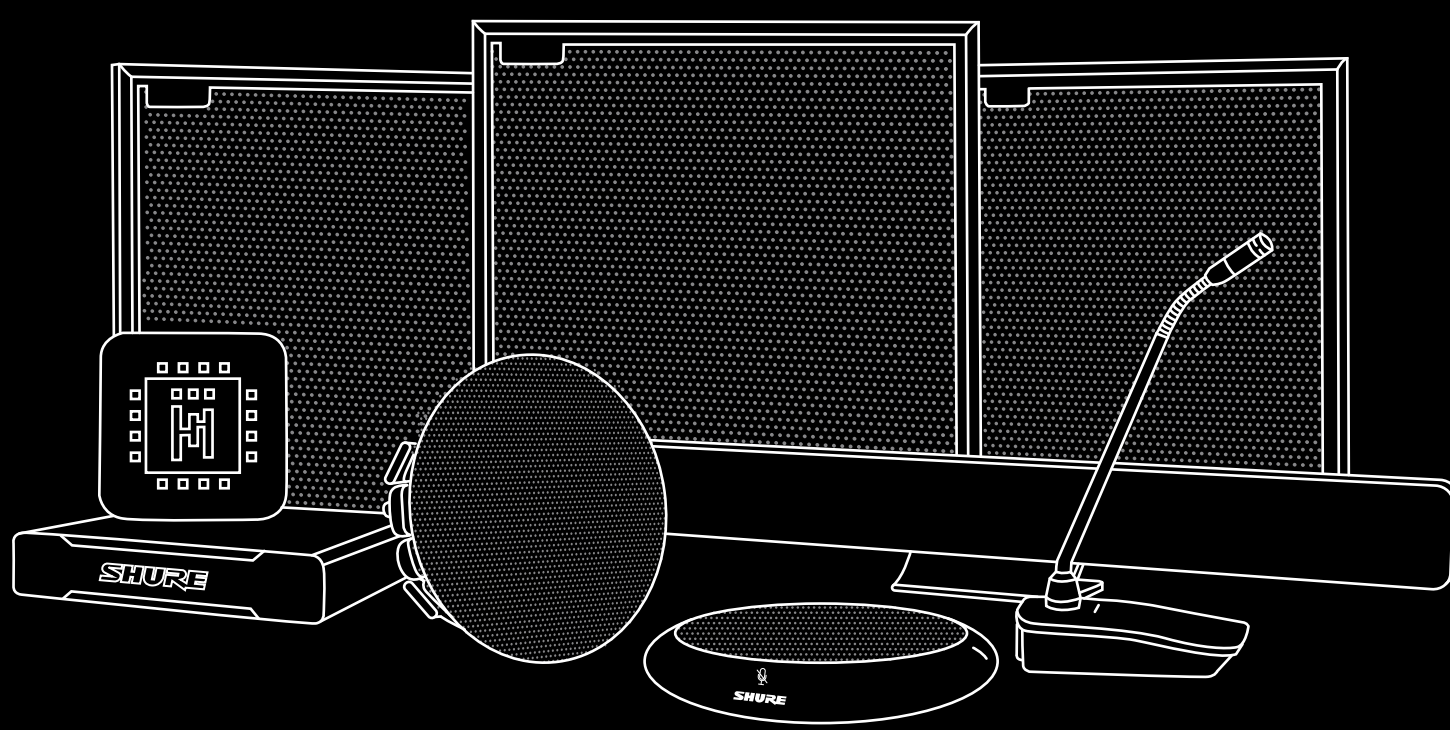
「オーディオ・エコシステム」を活用して従業員エンゲージメントを向上させ、組織活動を成功へ導くには

[ダウンロードはこちら](#)

# 相互運用性が高く、組み合わせが柔軟な会議用音声機器の選び方



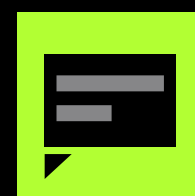
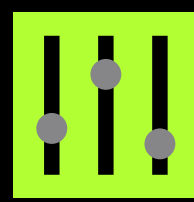
さまざまな会議環境で明瞭な音声を実現するために大事なこと。それは、**幅広い製品ラインナップを備え、さらに組み合わせの自由度が高く、機器同士がシームレスに連携し、多様な会議環境へ高性能なオーディオ機能を提供できるものを選ぶ**ことが重要です。これまでは「欲を言えば」と言っていたこうした条件は、今は「なくてはならない」ものになっています。



生産的で自然なコラボレーションを実現するには、次の要件を備えた会議用のAV機器が必要です。

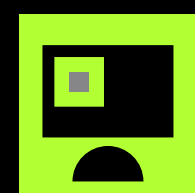
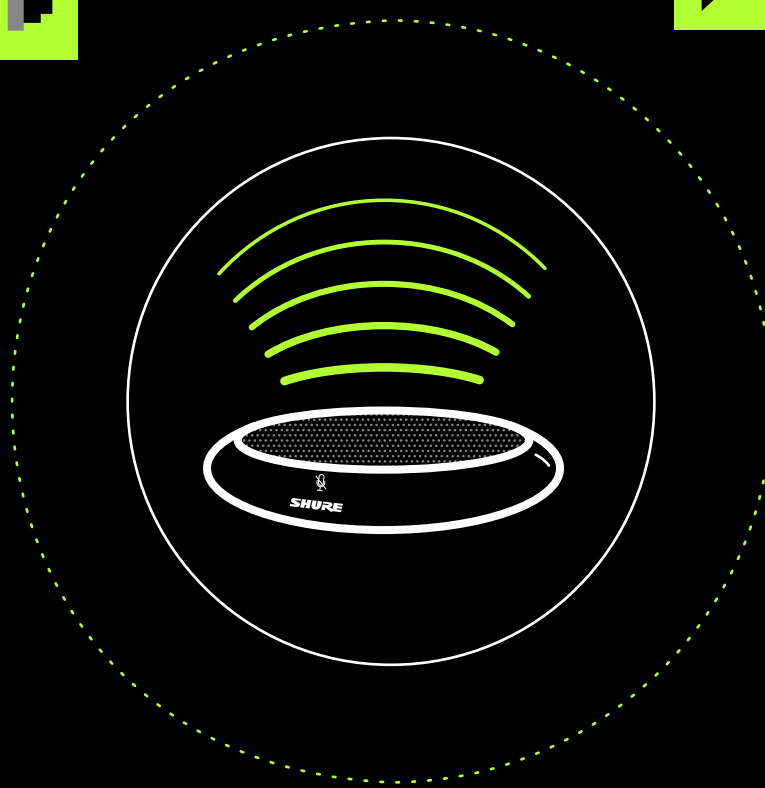
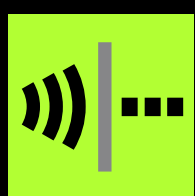
自宅、オフィススペース、会議室を問わず、**容易にセットアップできるもの**

テレワーク用として、**頑丈で低ノイズ**の業務用品質を備えたマイクロホン



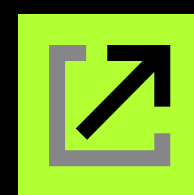
管理・監視が一元化され、**スムーズなITサポート**が提供できるもの

オフィスとリモートの両方に**ノイズ低減機能**を提供できるもの



機器の操作やファームウェアのアップデートが**簡単にできるアプリ**を備えたもの

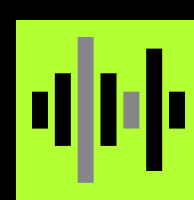
最適な明瞭性を保持する**オートミキサー機能**



オフィス勤務が増えた場合に備えて、会議空間を増やしても**容易に増設できる拡張性**があるもの



Microsoft TeamsやZoomなどの**コラボレーションプラットフォームとスムーズに連携**できる



**発言音への干渉を抑える**アコースティック・エコー・キャンセリング (AEC) とバックグラウンド・ノイズ・リダクション機能



柔軟性、相互運用性に優れた会議用「オーディオ・エコシステム」を構築する方法について

[ダウンロードはこちら](#)